

# 北方領土検定

## 産業編（漁業、農林業、鉱山業、商業等）

※産業編は、1945（昭和20）年以前の北方領土についての問題です。

- Q 1 北方四島が本土へ移出していた主な食品は？  
A：塩鮭      B：米      C：砂糖      D：味噌
- Q 2 歯舞群島の水産物で根室に集荷され国内はもちろん中国の上海にも輸出されているものとは？  
A：コンブ      B：ウナギ      C：真珠      D：サンマ
- Q 3 北方四島が本土から移入していた主な穀類は？（ヒント：日本人の主食）  
A：米      B：麦      C：トウモロコシ      D：蕎麦
- Q 4 国後島のトドマツやエゾマツなどの針葉樹は製材工場で加工され、木材は島内や根室地方で消費された。その主な利用目的は？  
A：家屋等の建築材      B：漁船等の舟材      C：ストーブの薪材  
D：線路の枕木材
- Q 5 1945（昭和20）年8月、歯舞群島と色丹島の馬の合計飼育頭数は？  
A：8頭      B：38頭      C：638頭      D：1,638頭
- Q 6 北方四島で飼育されていなかった動物は？（ヒント：寒さに弱い）  
A：牛      B：豚      C：羊      D：狐
- Q 7 鉱物採掘は1879（明治12）年頃始まった。国後島の千島鉱山では、佐渡島の佐渡鉱山で採れる金属と同じものが採掘された。その産物とは何？  
A：石炭      B：硫黄      C：金・銀      D：ダイヤモンド

- Q 8 北方四島の一番大きな産業は？  
A：水産業・水産加工業      B：林業      C：農畜産業      D：鉱山業
- Q 9 産業開発の原動力となる電気の発電施設で稼働していたものは何？  
A：水力発電所      B：火力発電所      C：風力発電所      D：原子力発電所
- Q10 埼玉県深谷の商店も北方領土の海産物を仲買していた。その海産物は？  
A：エビやカニ      B：ウニやイカ      C：サケやマス      D：マグロやタイ

## 戦前の北方四島とその暮らし

### 【江戸時代】

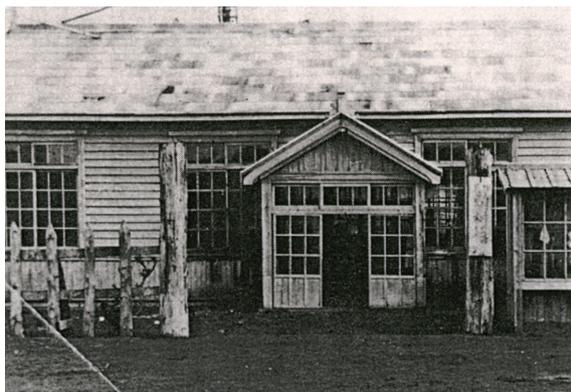
- ◎ 北方四島が古くから日本に支配されていた土地であることは、さまざまな文献からも証明されています。1604（慶長9）年になると、蝦夷地（北海道、樺太、千島）は江戸幕府の命令を受けた松前藩が治めるようになりました。松前藩は蝦夷地交易の独占権を持ちながら、北方四島と千島列島に住むアイヌ民族との交流をはじめたと考えられています。
- ◎ その後、1615（元和元）年にもメナシ（羅臼と国後のことを指すアイヌ名）のアイヌ民族の酋長エシラケが、多くの船を使って松前を訪れ、地元の人々と交流したという歴史的経緯を紹介する記述が松前藩の初期の記録「新羅（しんら）の記録」に記述されています。この記録によると、メナシ地方に住んでいたアイヌの人たちがラッコの毛皮を持ってきて、松前藩主に貢ぎ物として差し出したということです。

### 【明治時代】

- ◎ 明治時代は北海道本土をはじめ、北方四島と千島列島の開拓も積極的に進められた時代でした。1880（明治13）年には新しい行政組織のもと、色丹島、国後島、択捉島の3島に村役場が置かれ、郵便局や小学校も設けられました。道路や港も整備され、しだいに住み良い環境が整えられていきました。島への移住者が増えていったのもこの頃からでした。

【昭和時代・終戦時】

- ◎ 終戦時、北方四島には約17,000人の日本人が暮らしていました。また、各島に役場が置かれ郵便局、警察署、小学校等が設けられ、多くの人が水産業に従事していました。
- ◎ 終戦時、39校の国民学校などにおいて約3,000人の児童が就学していました。
- ◎ 明治維新以降、地方行政制度が施行され、いろいろな変遷を経て終戦時には、各島には次の行政機関が置かれていました。
  - ・ 歯舞群島：北海道根室半島に本村を有していた花咲郡歯舞村（同村の離島という位置づけ）（1959（昭和34）年、根室市に編入・合併され、現在は根室市）。
  - ・ 色丹島：色丹郡色丹村。
  - ・ 国後島：国後郡泊<sup>とまり</sup>村、国後郡留夜<sup>るやべつ</sup>別村。
  - ・ 択捉島：択捉郡留<sup>るべつ</sup>別村、紗那郡紗<sup>しやな</sup>那村、薬取郡薬<sup>しべとろ</sup>取村。



留別村役場（昭和12～13年頃）



花嫁と父親



択捉島の仏教寺院



択捉島の国民学校運動会



色丹島の神社



歯舞群島 学校 記念写真



択捉島の祭



日本の最北の村 戦前のしべとろ薬取村

## 戦前の北方四島の産業

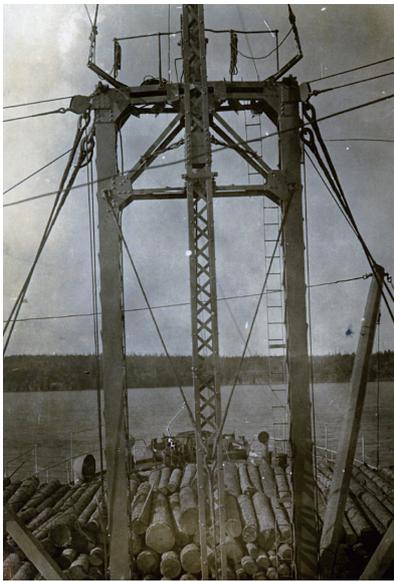
- ◎ 北方領土周辺の水域は親潮（千島海流）と黒潮（日本海流）が交錯しているため、水産物がきわめて豊富で、古くから世界三大漁場の一つに数えられていました。したがって戦前同水域ではわが国の水産業が盛んでした。主な水産物は、昆布、さけ、ます、たら、すけそうだら、たらばがに、なまこ等です。
- ◎ 1939（昭和元）年から1941（昭和16）年までの3か年の平均水揚高は、約21万トン（当時の金額で約5,200万円）で、北海道全域の23%を占めていました。
- ◎ 水産業のほかに、国後島や択捉島では、林業（針葉樹林）、魚類のふ化事業（サケ、マス）、鉱業（硫黄、硫化鉄、金、銀など）が、また国後島では畜産業（馬、牛、羊など）などがおこなわれていました。



択捉島 紗那村 紗那警察署



択捉島 馬牧場



択捉島 材木の運搬



択捉島 久保田写真館



択捉島 大漁の漁船

